

2014年度授業アンケート結果

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD 委員会

はじめに

授業アンケートは、学生のみなさんが授業についてどのように受け止めているのかを担当教員に伝え、授業内容をより良いものにしていくことを目的としています。2014年度前後期にそれぞれ実施された授業アンケートの結果を以下に報告します。

1. アンケート調査の目的

アンケートは以下の方法で行われています。

- (1) ゼミナール等を除いてすべての授業でアンケートを実施する。
- (2) 各授業担当者には授業後の約10分間をアンケート記入に当てるように伝える。
- (3) アンケートの回収は事務部門で行い、教員は集計等に関与しない。
- (4) 授業毎に結果を授業担当者に渡し、今後の対応とコメントを求める。
- (5) 学長および教授会メンバーにアンケート結果と、FD委員会の意見を報告する。
- (6) アンケート結果をまとめ、学生に報告する。
- (7) 以上の取り組みをもとに、各種の研修を行う。

2. アンケートの結果と分析

このアンケートは2002年度から行われていますので、今年度で13回目になります。

回答率

今年もアンケートの回収率は上位学年になると低下しました。2年生になると70%弱の回答率となり、最終学年の後期になると40%を切る例もありました。ただし、発達臨床学科と家族・地域支援学科の4年生では回答率が若干もち直す傾向がありました。

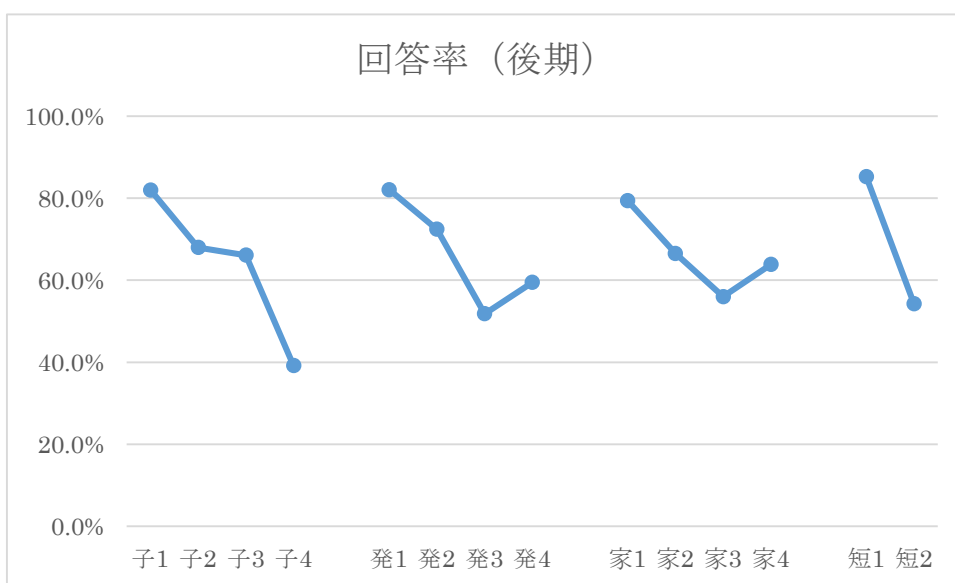
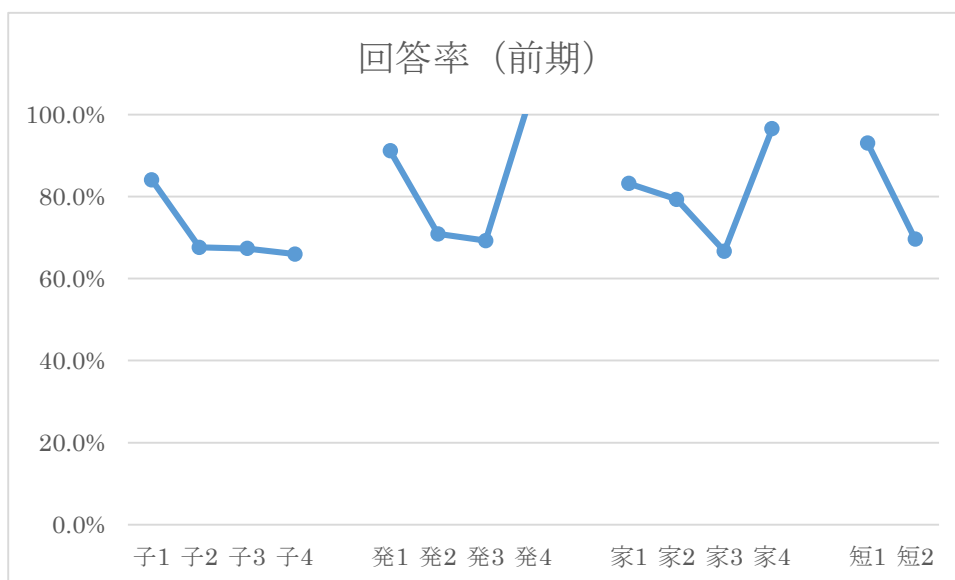
今年度も上級学年ではアンケートによる授業内容の改善に大きな期待をしていない学生が多くなっている可能性が考えられる結果です。これは、アンケート結果が授業の改善にどのようにつながっているのかについて、学生が実感できるフィードバックの方法を探る必要があると言えるでしょう。また、教員側がアンケートによって授業内容が良いものになっていることを学生に伝える必要も考えられます。

現在は、授業科目担当者の個別に意見を出してもらう形式で学生にフィードバックする方法を取っていますが、アンケート結果が「白梅の授業」全体にとっても必要な材料を提

供していることを理解してもらう方法も検討課題となると言えるでしょう。

また、2つの学科の最終学年で回答率が上がっている結果についても考慮する必要がありそうです。卒業を前にして、学びの内容の完成を迎えるにあたって、授業に積極的に関わる学生たちが増えているとすれば、望ましい結果と言うこともできるでしょう。あるいは、後輩たちのために、自分たちの意見を残そうと考える学生が増えた結果かもしれません。

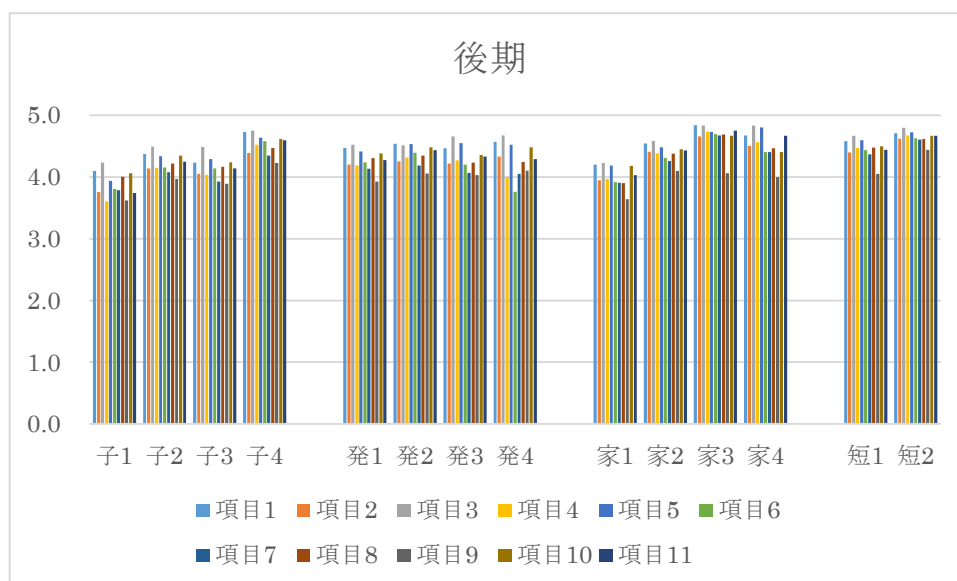
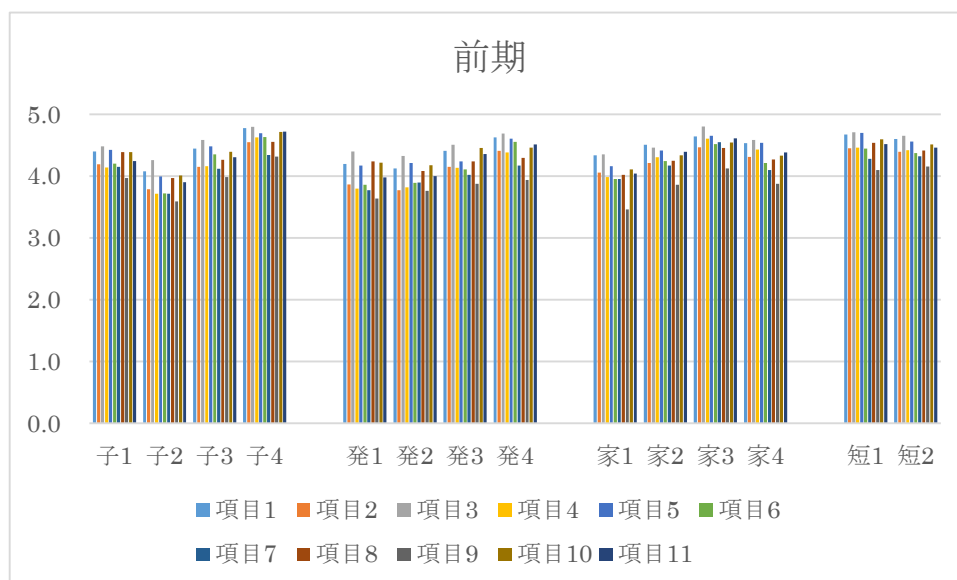
次年度の課題として、アンケート結果を授業内容にどのように反映すればよいのか、どのように学生にフィードバックすればよいのか、あらためて検討することが求められる結果と言えるでしょう。また、アンケート項目の再検討も求められます。これは、後述しますが、現在の質問項目の結果は基本的に良い結果となっており、アンケート項目から、授業内容をより向上させるための糸口を見出すことが難しくなっていると考えられるからです。



質問項目

質問項目は下記の11項目です。

1. 毎回の授業の目的が明確で、それに沿って行われていましたか
2. 今までの授業全体の内容を理解できましたか
3. 教員は、授業内容に熱意を持っていましたか
4. 教員は、学生の理解度に配慮していましたか
5. 授業での教員の声の大きさや言葉づかいは適切でしたか
6. 板書や教材などは見やすかったですか
7. 成績評価の方法と基準は明確に理解できましたか
8. あなたは、この授業に熱心に参加しましたか
9. 分からないことは、質問したり調べたりしましたか
10. この授業を受講して、その分野についての新しい知識や技能が得られましたか
11. この授業について、総合的に満足していますか



今年もほとんどの質問項目で5段階評価の4を超えており、数値上は全体としてしっかりとした授業が行われている結果と言えます。また、今年も昨年度と同様に、相対的に低い傾向であった項目2「授業内容の理解」についても、4を超える学科・学年がほとんどです。ただし、細かく見ますと大学の3学科の1、2年生の得点でやや低い傾向があります。このことは、高校から大学の授業への接続としての初年次教育について、もう少し検討する必要があることを示唆する傾向と言えるでしょう。ただし、学年が上がるにつれて、全体の得点が上がる傾向もあり、大学の授業に慣れ、同時に学習内容の積み重ねから理解度が進むことで、アンケート項目の得点も向上していると考えれば、学びの場としての大学の役割りを果たしている結果と見ることも可能でしょう。

懸念されることがあるとすれば、アンケートの回収率が2年次以降下がっていることとの関係です。回答項目の得点の低い学生が、学年が上がることで回答しなくなっているも、今回の傾向が出る可能性が残されています。授業の理解度や満足度の比較的高い学生は、学年が上がってもアンケートに協力し、同時に理解度や満足度の低い学生はアンケートに協力しなくなることで、結果的に学年の進行につれて高い得点の項目が増える傾向が生まれるというものです。このアンケートの回収方法では個人を特定していませんので、あくまでも可能性の一つですが、今後の検討が必要などころと言えるでしょう。

学生の授業に対する取り組みを聞いた項目8「授業に熱心に参加しましたか」については、今年度も4を超える高い評価になっています。しかし、項目9「分からないことは、質問したり調べたりしましたか」については3点台の学科・学年があり、今年度も相対的に低い結果となりました。これは昨年と同様の結果と言えます。

「熱心に参加したが質問はできない、自分で学ぶ（調べる）こともしない」ということであれば、単位制によって2単位の学修が求められる授業に問題が残されていると考えることもできます。どの授業科目でも、授業時間のみで学修が完成するわけではないことを学生に理解してもらい、それを助ける方法についての指針を教員が示す必要があるのではないのでしょうか。

以上が今年度のアンケート結果の概要になります。いくつかの検討課題が示されました。次年度は特に以下の三点についての検討を進め、授業改善に役立てることとします。

- アンケートの回収率を高めること
アンケートの回収方法の検討、アンケート項目の検討
- アンケート結果の活用
個別対応だけでなく、アンケート結果に基づいたFD研修内容の検討
学生へのフィードバック方法の検討
- 学生が自ら学ぶことのできる授業づくり
受け身の学習から、自分自身で学びを深める力を身につける指針の検討

以上